

## 宮城県支部総会・囲碁対決観戦・懇親会

宮城県支部長 永井 寛(昭和55・生物)



令和6年度宮城県支部総会が、9月21日(土)午後4時半より仙台駅西口のホテルJALシティ仙台において開催されました。鶴風会本部から吉田茂雄支部担当理事・会員活動支援委員長(前理事長)、深澤恵子群馬県支部長を迎え、支部会員5名の併せて7名の出席でした。コロナ禍と、台風の接近等の事情から実に5年ぶりの開催となり、なつかしさもひとしお、アトラクションも会員同士の囲碁対決と言う「趣味の活用」を取り上げ、和気あいあいの総会でした。大学、鶴風会本部の今後に向けた、楽観視できない現状も理解しつつ、いくつかの課題を模索しながら、来年の再会を誓って閉会することができました。

総会では、令和元年から4年度までの活動・会計報告及び監査報告、令和5、6年度の活動計画、予算案、役員案が承認されました。年に一度集まって懇親会を開く以外に、大学の為に何が出来るかという支部会の根本的なテーマについて、いくつかの意見が出ています。大学の先生に来てもらい仙台で講演会を開く。子供向けの科学教室を開く。宮城の高校からの推薦枠を広げて貰う等々。これらは継続して考えていくべき事柄だと思っています。そんな中、現在注目しているのが白石高校化学研究部、生物班の梅花藻(ばいかも)の研究・保全活動です。白石在住の二人の会員が二年間に渡って、展示物を見に行ったり、発表会に足を運んだり、この活動に声援を送っています。今総会では、支部として注目していこうという目的で、彼らの活動エリアである白石川沢端地区が写し込まれた映画「ラストレター(2022年岩井俊二監督)」のDVDを寄贈することが決定されました。また、県内在住の東邦大医学部、薬学部の同窓生との合同の同窓会を開催出来ないか、可能性を探ってみようという意見もでました。支部規約を本部の法人化に合わせて改訂するという案は、来年まで保留・検討という事となりました。



今回のアトラクションは、「余暇の活用・趣味と人生」を考えると題して、支部会員同士の囲碁対決を観戦することとなりました。対決するのは関西棋院初段の腕前を持つ小野嘉信副支部長(S58 化学)と「自称二段」を公言してはばからない阿部時雄前支部長(S41 化学)の二人。観戦するのは囲碁を全く解せぬ5名という事で、ギャラリーの「白と黒はどっちが大きいの?」「材質は?」「碁盤の裏には何があるの?」みたいな奇想天外な質問に、対戦者がその都度答えるというサービスぶ

りで勝負の趨勢は全く分からず「時間切れ」を迎え、引き分けと言う結果になりました。しかし、こんなことができるのは宮城の仲の良さという事で、次のステージ、懇親会へと突入しました。

懇親会は参加者全員からのスピーチを頂き、和気あいあいの中にあっという間の二時間飲み放題の時間が過ぎ去って行きました。遠路駆けつけてくれた深澤群馬支部長は、会員140という宮城の3倍以上の大きな支部の運営の苦労話を聞かせてくれました。更に総会以外の企画として10年程続いていると言う「自然観察会」の取り組みを紹介されました。「今年は中央構造帯を見に行く」との力強い言葉に圧倒されてしまいました。吉田茂雄前理事長は、大学内で聞かれるようになった工学部的なものの新設の話、大学100周年に向けた鶴風会本部からの大口寄付の報告、休会支部の増加等。まさにホットな情報を頂き、私たち会員の認識も少なからず新たになった感がありました。が、本音は「大口の寄付による理学部同窓会の存在感もさることながら支部活動費の増額もお願いしたい」などの声が聴かれました。前理事長としても耳が痛い意見だったかもしれませんが、お隣岩手県出身という事もあり、すぐ宮城県支部会員の面々と打ち解け、楽しい懇親会となりました。深澤支部長、吉田前理事長本当にありがとうございました。

